



友 愛

全国学力・学習状況調査報告編

鴨池小学校
学校だより
令和5年10月発行

令和5年4月に行われました「令和5年度全国学力・学習状況調査(対象6年)」の結果がまとまりましたので概要をお知らせします。

この調査は、5年生までの学習内容をもとに、定着度の把握や指導法改善をねらいにしています。児童質問紙は、子どもたちの生活や学習の様子、考え方について調査しています。これらの結果をもとに、今後さらに全学年の子どもたちの学力向上のために学校と家庭が一体となった取組を推進していきたいと思っておりますので、御理解・御協力のほどよろしくお願いいたします。

＜教科に関する結果概要＞

本校の調査結果を平均正答率で表すと、右の棒グラフのとおりです。

国語は全国と市の平均を下回っています。算数は全国都市の平均を上回る結果となっています。

小問ごとに見ていくと理解できているところもたくさんありますが、読み取る問題の正答率が低い状況です。

＜国語＞

国語では、「書くこと」「読みこと」については正答率が高い。「言葉の使い方や特徴に関する事項」「情報の使い方に関する事項」が正答率が低くなっていた。また、無答がほぼなく、あきらめずに最後までしっかり問題に取り組む姿勢がある。

今回の正答数が9問以下だった約70%の児童があと1問解ければ全国や県のレベルに並ぶことも分かった、今後は、設定された時間で問題が解けるようにしていく。そのために、説明文など読む際に、中心となる語や文章に丸で囲ませるなどを意識した授業を行っていく。

＜算数＞

算数では、「数と計算」については正答率が高くなっていた。「図形」については正答率が低くなっていた。正答数から見ると、平均よりも2問以上解けている。このことから、これまでの基礎・基本の積み重ねの結果だと思われる。

「図形」では、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」の正答率がかなり低かった。そこで、具体的な数値が示されていない場面においては、問題を解決する際に必要な情報を見つけたり、適当な数値をあてはめたりして考えるように指導を行っていく。

＜全体的に＞

今後、授業で自分の考え、理由、事実等を分けて文章を書く活動を取り入れていきます。

また、今後も毎日の漢字練習と日記を活用して書く力の向上や音読カードを利用して読む力の向上を図ります。四則演算では速く正確にできるようにするために反復練習を積み重ねていきます。

【全国の平均正答率を100としたときの数値】

